

平成21年度

施政方針

活動テーマは「機転の市政」

詳細 政策推進課 (画)32)6039

第9回市議会定例会で、岩倉市長は平成21年度の施政方針と予算案を説明しました。施政方針では、逆境に負けない「たくましい苦小牧」を目指し、任期4年目を迎えるこの一年を市政の仕上げの年と位置づけ、市民のための市政運営を強く意識し、未来に向かって明るい希望が持てる苦小牧を築くため全力を尽くす決意を表明しました。市政運営に臨むにあたり基本政策として3項目、今年度において取り組む重点施策として7項目、主要施策として5つの基本目標に沿った施策を掲げました。



苦小牧市長 岩倉 博文

掲載内容は抜粋です。全文はホームページと市役所2階情報コーナーでご覧いただけます。http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/ から政策推進課へ

本市のまちづくりを進めるためには、交通・物流の要衝であるという優位性と可能性を活かし、厳しい経済状況を逆にチャンスと捉え、次世代のニーズを見据えた広範な産業集積を進めていくことが重要です。そのため、本市を取り巻く環境の変化をしっかりと把握し、あらゆる課題に機敏に対応していかねばなりません。柔軟な知恵と適切な判断により、効果的な対策を速やかに実行する「機転の市政」を本年度の活動テーマとし、まちづくりを進めます。

基本政策

この姿勢を貫く決意を「剛毅果断」という言葉で表し、行動指針として発信していきます。

財政健全化

財政健全化について、任期中の最重要課題として取り組み、19年度決算では「経常収支比率」、「公債費比率」、「実質公債費比率」の3指標はいずれも目標値をクリアしました。しかし、「資金不足比率」については、自動車運送事業会計の20年度決算において基準を超える見通しであり、依然として厳しい状況が続いています。

福祉施策

地域福祉は、すべての市民が住み慣れた地域で安心して生活を送れるよう、福祉の個別計画を横断的に結びつけた「苦小牧市地域福祉計画」の策定に取り組みます。子育て支援は、「とまこまい子ども未来計画」の後期計画を新たに策定し、安心して子どもを産み育てる環境づくりを推進します。妊婦健診は、安心して妊娠・出産ができる体制を確保するため、必要な経費の助成を現行の5回から14回へ拡大します。また、子育てと健康に関する総合的な施策の推進を図るため、「子育て・健康支援室」を設置します。



4月からオープンする「苦小牧市教育福祉センター」は、教育、健康支援、子育て支援、高齢者福祉の機能を設置し、幅広い世代の多角的な活用を進めます。

教育行政

学校教育は、4月に青翔中学校を開校させ、学校規模の適正化を図るほか、子どもたちの安全を確保するため小中学校の耐震化を進めます。また、老朽化の著しい第1学校給食共同調理場の移転新築工事に着手し、23年度の完成を目指します。社会教育は、豊かな心を育て、生涯にわたる学習意欲を高めるため、情報の提供や学習機会の充実を図るとともに、施設

財政状況を1年でも早く、青信号に近い黄色信号に改善し、財政安全宣言を発信できるように全力を尽くします。

重点施策

市営バス事業は、厳しい財政状況から今後も多額の支援を続けることは困難であり、将来にわたり市民の足を守るために、24年度からの民間移譲に向けて取り組みます。養護老人ホームは、4月から民間に移管し、本市として初めてとなる民設民営方式による整備を進めます。さらに、指定管理者制度の拡大を図るため、新たに、文化交流センター、勤労青少年ホーム、川沿公園体育館について、22年度の導入を目指して取り組みます。

「eコライフ大作戦」の一昨年の「053(ゼロこみ)大作戦」をより広範な環境問題への取り組みとして発展させ、「地球環境」、「資源環境」、「自然環境」、「環境教育」を柱にした「eコライフ大作戦」をまちぐるみで展開し、エコ意識の向上とエコ活動の実践を促進します。

市民自治の推進

19年施行の自治基本条例の理念に基づき、市民自治のまちづくりを具体的な取り組みとして実践するため、昨年、市民参加条例を制定し、本年4月から施行します。これにより、市政運営への市民参加が保障され、市の政策の立案、実施、評価の過程において、市民の意見が反映されることとなります。今後は、市民自治のまちづくりをさらに進めるため、これら2つの条例のつとめ、市民との情報共有を基本とした市民参加と協働による市政を積極的に推進します。

景気・雇用対策

企業誘致は、トップセールスを軸に据え、航空機産業をはじめ今後の成長が見込まれる分野の誘致を目指すとともに、引き続き自動車、リサイクル、パイオ産業など、関連企業の積極的な誘致を進めます。また、港湾物流業界を視野に入れた企業誘致を推進するため、苦東開発と港湾業務を企業誘致と一体化させる組織機構改革を実施します。

主要施策

- 1 健やかで安心・安全に暮らすまち**
児童虐待対策は、児童相談員を増員して相談体制を強化し、要保護児童とその家庭を支援します。高齢者福祉は、地域包括支援センターの拡充と地域支援事業の進展を図ります。障がい者福祉は、公共施設のバリアフリー化を推進します。4月に開設する夜間・休日急病センターでは、職員の増員や新たな医療機器の導入により一次救急機能の強化を図ります。市立病院は、新生児集中治療室(NICU)を持つ地域周産期センターとして、ハイリスク妊婦などへの適切な医療の提供に努めます。消防は、高度な救急資器材を備えた救急車を配置し、4月から救急5隊を運用します。
- 2 活力ある産業と賑わいのまち**
新千歳空港は、航空ネットワークの変化が予想されることから、地域と空港の共生が図られるように努めます。建設中のウトナイ交流センター(道の駅)は、名称を「道の駅ウトナイ湖」とし、秋のオープンに向け、地域と関係機関との協議をさらに進めます。苦小牧港は、東港区の耐震強化岸壁の整備を進めます。西港区は、漁港区拡張整備に着工し、機能の充実に努めます。観光は、ピジット苦小牧観光会議を設置し、効果的な観光振興策を検討します。中心市街地は、空き店舗家賃補助事業や、活性化事業を引き続き支援します。
- 3 自然と環境にやさしいまち**
大気汚染の監視は、安定測定継続のために機器を更新します。また、監視体制や情報公開などの強化を図ります。航空機騒音は、航路下地域で常時監視し、それ以外の地域も臨時測定をします。清掃事業は、ごみ出しが難しい単身高齢者などに、ふれあい収集を実施します。また、22年4月からの廃プラスチック類の分別収集に向け準備を進めます。
- 4 快適空間に生活するまち**
公園は、緑ヶ丘公園の整備を進めるとともに、地域防災拠点となる日の出公園の完成を目指します。水道事業は、緊急貯水槽整備事業に着手します。下水道事業は、管きよ整備や合流式下水道の改善事業を進めます。市営バスは、利便性の向上を図り、安全で快適な公共交通を目指します。新公共交通システムは、実態調査や意向調査などを行い、将来ビジョン策定に向けたデータ収集を進めます。
- 5 手をつなぎ歩む誇りが持てるまち**
町内会館の整備は、消防用警報設備修繕の助成などを行います。9月に開催の「ねりんピック北海道・札幌2009」の卓球と太極拳の交流大会が本市実施のため、本大会に向けて準備を進めます。国際交流は、青少年の派遣事業や友好都市サポーター育成事業を実施します。

